

デイヴィッド・ホックニー展

東京都現代美術館（江東区木場公園）23.07.15～11.05



《春の到来 イースト・ヨークシャー・ウォルゲート 2011年》

本展は、現代で最も革新的な画家のひとり「デイヴィッド・ホックニー」（1937～）の日本では27年ぶりとなる大規模な個展で、アメリカ西海岸で描いた初期作から、近年の集大成というべき故郷ヨークシャー東部の自然を描いた大型絵画シリーズの最近作品まで「100点以上」が集結し展示されている。

「ホックニー」は、イギリス生まれで60年以上にわたり絵画、ドローイング版画、写真、舞台芸術といった分野で多彩な作品を発表し、近年はiPadを用いて身近な主題を描き続けている画家である。画伯の作品の特徴は、アメリカ西海岸の明るい陽光を感じさせる華やかな色調で、室内風景、プールのある邸宅、人物などを描いたものが多いのが特徴である。



《クラーク夫妻とねこのパーシ
ー》 1970～71年 カンヴァス
/アクリル

画伯がおよそ一年をかけて制作した作品は、画面はあちこちに物がちらばり、主人のオーヂが素足でくつろいでいるため一見思いつくまま描かれたように感じられる。実際には良く考えられた絵で、幾何学的な形が沢

山取り入れられ、カップルは窓の両側で対になるようにポーズをとっている。

そして、窓から差し込む太陽の光が全ての物の輪郭を明白にし、立体感を無くしてくっきり目立たせている。